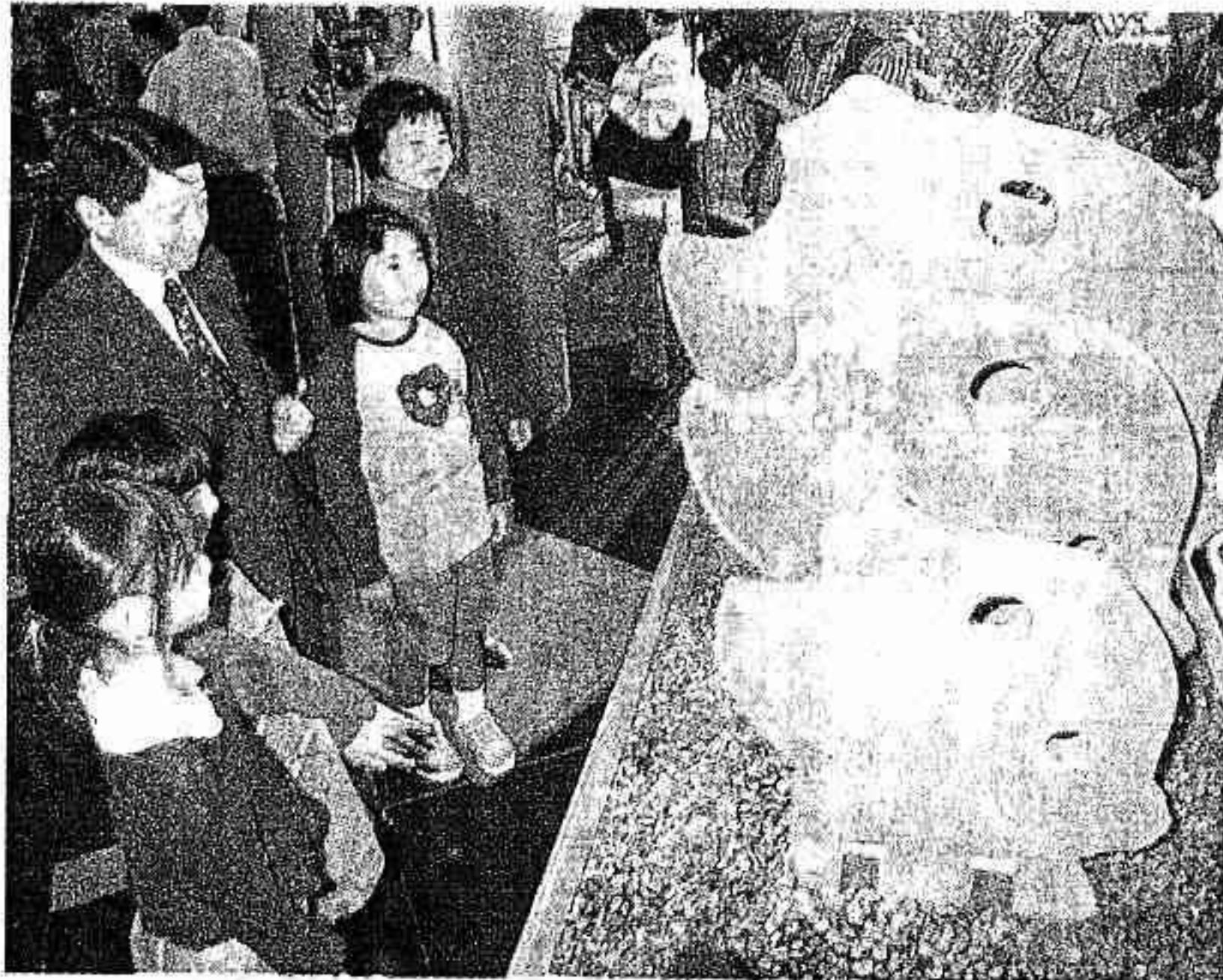


# 報道記事紹介

# 鳥取県西部地震考える県民大会

## 「力を合わせて頑張ろう」 復興宣言力強く モニュメントを開幕



鳥取県西部地震の1周年を記念して制作した復興モニュメントを見る片山善博知事ら＝6日午後、米子市

「鳥取県西部地震」を考える鳥取県民大会が、地震から丸一年を迎えた6日、JR米子駅前の米子コンベンションセンターで開かれた。参加者が「元氣いっぱい鳥取県！ みんなで力を合わせて頑張ろう」と復興宣言し、米子コンベンションセンターに復興の象徴として設置されたモニュメントを開幕した。

（鳥取地域総合面に関連記事）

大会は県が主催し、県内各地から千百人が出席。片山善博知事が「われわれは地震で痛い打撃を受けたが、教訓も得た。風化させることなく、災害対策に生かしたい」とあいさつした。

「西部地震を乗り越えて」をテーマにした討論では、西伯町の坂本昭文町長が「地震を通し、町職員が住民の生命、財産を守る使命を強く感じた。二十一世紀の地方分権に生かしたい」、日野ポランティアネットワークの結成にかかわった日野町文化センターの松田暢子所長が「震災は大変な経験だったが、町が元気づく活動に生かしたい」と強調した。

産業基盤が被災した日野町下榎農用地利用改善事業組合の坂本達美組合長は「行政の力強い支援があった。今後は集落が知恵を出し合い、地域農業を守りたい」、カワバタ印刷（境港市竹内団地）の川端広社長は「人間は傷つくほど強い力がわく。不況の中だが、竹内で着実に頑張りたい」と決意を披瀝した。

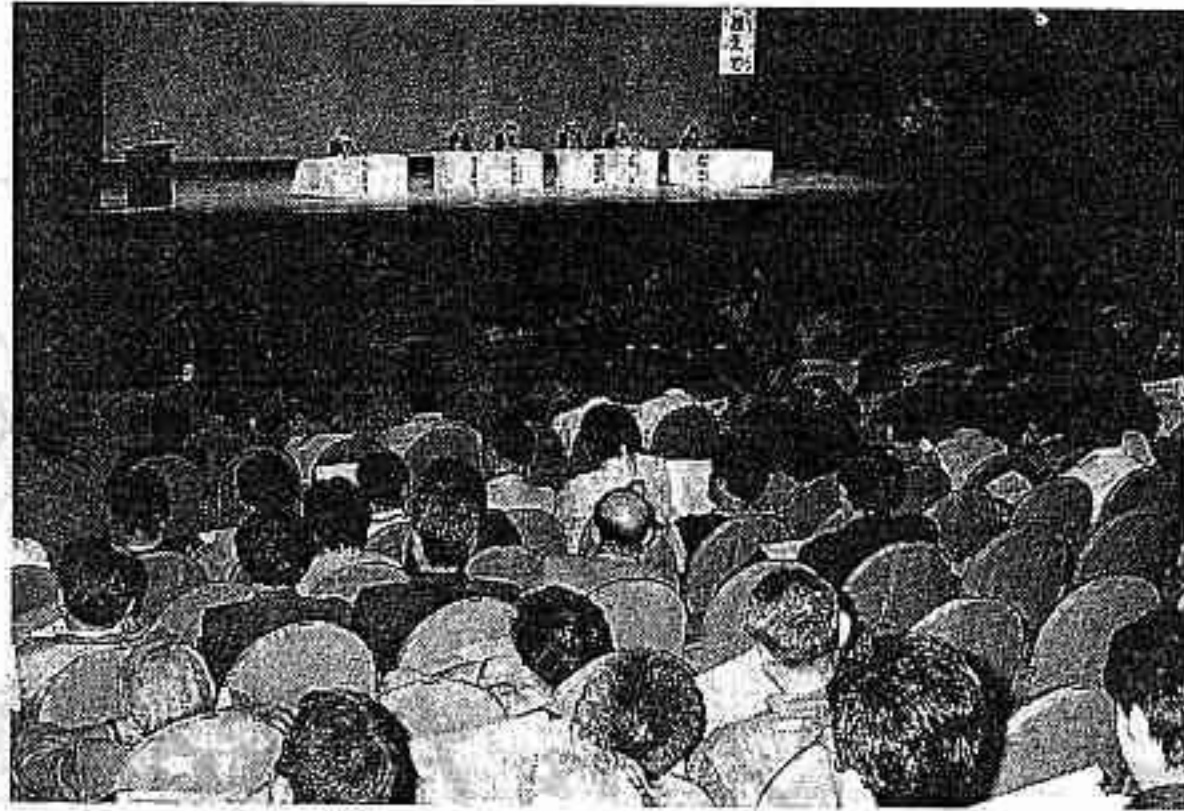
液状化現象で住宅が傾いた安倍彦名団地（米子市）の復興に当たった中ノ海二区地震被災復興委員会の矢野博司委員長は「地域のコミュニケーションや互助の精神をさらに大切にしていきたい」と語った。続いて山郷小（智頭町）、日光小添谷分校（溝口町）、日野中（日野町）の児童・生徒が復興に向けた取り組みを発表。最後に、根雨小（日野町）の児童と討論の参加者らが復興宣言を力強く唱和した。

コンベンションセンターの玄関ロビーには、米子高校総合学科で陶芸を選んでいる生徒が制作した陶製の復興モニュメント「まなざし」あすへの希望」を設置。大会終了後、制作した生徒や片山知事らが除幕した。

平成13年10月7日(日) 日本海新聞

# 災害教訓に備えを

## 米子で西部地震県民大会



パネリストたちが復興への取り組みや手ごたえを語った「鳥取県西部地震を考える鳥取県民大会」＝米子コンベンションセンター

鳥取県西部地震から丸一年を迎えた六日、「鳥取県西部地震を考える鳥取県民大会」（鳥取県主催）が米子コンベンションセンターで開かれた。片山善博知事を司会進行役にパネルディスカッションなどがあり、地域の「復興」を目指す行政、農業、ボランティア、企業などの代表が取り組みを報告。参加した約千人の県民たちが、報告者の経験を災害の備えに役立てようと耳を傾けた。

パネルディスカッションでは、農業用水路が大きな被害を受けた日野町下榎地区で大豆などの集団転作に取り組む坂本達美さんが「農業はもともと『破産企業』。収益を上げるための集団営農が地震をきっかけに実現した」と報告。

十八世帯の家屋復旧活動のリーダー矢野博司さんは「普段のコミュニケーションや相互扶助の精神が大切」と指摘。日野町でボランティアの世話役として活躍する松田暢子さんも「町にボランティアの輪が広がり、きょう鳥取県西部のネットワークも発足した。今後も町が元気づく活動を続けたい」と報告。

と、人のつながりの大切さを訴えた。このほか「行政の災害復旧は期間を定めて一気に行うべき」（坂本昭文西伯町長）「県の融資のおかげで工場再建ができたが、返済の期間延長を望む」（企業代表）などの意見もあった。

片山善博知事は最後に、「不安の解消は元の生活に戻すことがポイント。それが復興の原点とし、県が独自に創設した住宅復興補助制度が、家屋移転ではなく現在地の再建を狙ったことを強調。あっといふ間の一年間だったが、次の一年も早い。災害に備えて、きょうの経験と知識を活用してほしい」と県民に呼び掛けた。

「あの体験を忘れない」  
——人々の暮らしをまぢ並  
みを大きく変えた鳥取県西部  
地震から1年で1年。被災地  
では、地震発生時に合わせ

## あの日から1年 鳥取県西部地震

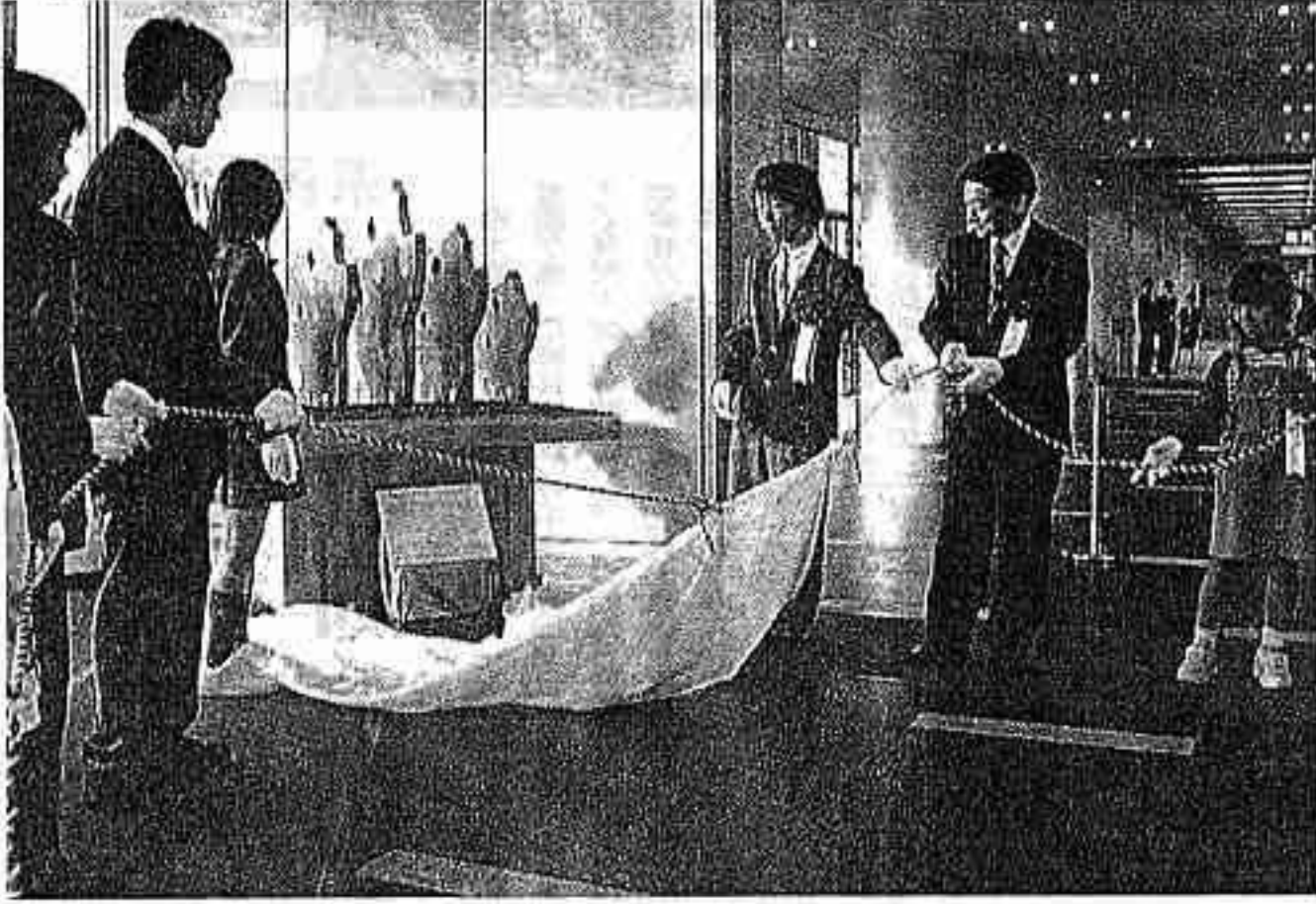
た罹りや防災訓練があり、参  
加した被災住民や自治体関係  
者は、復興への新たな一歩  
を踏み出し、災害に強いまち  
づくりを誓った。

# 災害に強いまちを誓う

## 県民大会に1100人 米子

鳥取県西部地震を考へ、米子市の米子コンベンションセンターで始まった。参加した約1100人は、地震が起きた同じ時刻の午後1時半、米子市人は「元氣いっばい鳥取」の掛け声で、片山藩邸前には「地震

復興モニュメントは、制作した米子高校の生徒らが除幕した—米子市内で



発生から1年の間に多く  
のことを学んだ。その教  
訓や、今も残る課題を十  
分に議論し、今後に生か  
していかたい」とあいさ  
つ。この後、パネルディ  
スカッションがあり、被  
災した自治体や自治会、  
ボランティアなどを代表  
して、西伯町の坂本昭文  
町長ら5人が被災体験や  
復興への取り組みを話し  
合った。

最後に上を向いた人の  
顔を表現したという復興  
モニュメントの除幕式が  
あった。「現実を直視  
し、みんなが力を合わせ  
て、希望を持って生きて  
いこう」との気持ちを込  
めて制作した米子高校3  
年の生徒や知事らが除幕  
した。

平成13年10月7日(日) 朝日新聞

# 真の復興力合わせ

県民大会

## 「元気いっぱい」宣言 教訓次代へ語り継ごう

最大震度6強を記録、けが人百四十一人、約二万六千棟の家屋被害を出した県西部地震から六日で一年。教訓が甦った時刻に合わせて午後一時三十分から米子市の米子コンベンションセンターで、「県西部地震を考へる県民大会」が開かれた。このほか日野町では全町一斉防災訓練が行われ、米子水鳥公園では一年ぶりに観覧車が再開。被災者らは復興の軌跡を振り返り、次代に教訓を語り継ぐことを誓った。県民大会では片山知事が「元気いっぱい鳥取県。みんなで力を合わせて頑張ろう」と宣言。△真の復興△に向けて新たな一年のスタートを切った。

県民大会は、市町村の防では、地震からの復興の過渡期に教訓を風化させない見を交わした。片山知事は「被災者約千人が参加し、復興の軌跡を振り返り、今後の防災と、私たちが後世に伝えていかなければならない」とあいさつ。片山知事ははじめ、西伯町の坂本昭文町長やボランティア、被災者の代表ら五人が参加したパネルディスカッションでは、地震時の取り組みや課題について意



県西部地震を考へる県民大会で復興宣言を行う根雨小児童ら（米子コンベンションセンターで）

県西部地震から1年

モニュメント「まなざし」を除幕する県立米子高の生徒（米子コンベンションセンターで）



は現行制度枠内の補助にとどまることができた。評議と地域とまじり、住民の流出が起きることを通りにするためには、県は独自の制度を創設し、現場で何が必要か直接感じ取り、流出をくい止めること取ることが大切だと強調

復興モニュメント建立

米子

県立米子高の生徒が製作した復興モニュメント「まなざし」が、一日も早い復興を願う、希望に満ちた明日をみつめる目を表現した。モニュメントに込めた意味を

発表し、一階ロビーで片山知事や町立根雨小三年の児童の人の顔をイメージし、中、高、高校生八人が除幕

した。松田暢子・日野文化のやさしい心に励まされた。センター所長は「ボランティアのたくさんの力がなければここまで早く復興ができたこと振り返った。鳥取県。みんなで力を合わせ、日野町立根雨小学校の児童と片山知事が「たくま

平成13年10月7日(日) 読売新聞

# 体験を風化させまい

## 県西部地震から1年

県西部を中心に深刻な被害をもたらした大地震から1年。被災地では6日、鳥取県西部地震を語る県民大会（県主催）や防災訓練、ボランティアネットワークの発足など、震災体験を風化させまいとするさまざまな取り組みが展開された。日野町には現在も仮設住宅に住む人や道路の寸断な

ど地震のつめ跡が残るが、県民大会では「元気がいっぱい鳥取県！力を合わせてがんばろう」と、「復興宣言」がこたました。

### 力を合わせてがんばろう

#### 1100人集まり「復興宣言」

米子で県民大会



復興への取り組みを話し合うパネルディスカッション

県民大会会場の米子市未広町、米子コンベンションセンターには、自治体関係者やボランティアら約1000人が集まった。西部地震を振り返るビデオ上映に続き、片山博博知事の司会で坂本昭文・西伯町長ら5人によるパネルディスカッション。

まず、地震が発生した時の心境や対応、復興への取り組みを語った。坂本町長は「発生直後に一番大変だったのは、膨大な課題に即断即決を迫られたこと。県職員と町議会議員はそれぞれ、相談しながら初期対応にあたった。この1年間で、職員たちは住民を守るために自分たち

の余震で決定的な被害を受け、その後は仮設で操業し、移転先を定める日々が続いた。竹内団地

に残ろうと決意したのには、団地の土壌のリース制度が創設されたため。結局、県の融資制度や補助制度を4種類利用して新工場開設にこぎつけた」と振り返った。

また、日野町でボランティアの受け入れを担当した同町文化センター所長、松田暢子さんは「町には延べ3800人のボランティアが来た。受け入れでは、ボランティアの備置と供給をうまく調

整するコーディネーターが必要。独居・高齢世帯の困りごと調査もボランティアの協力を得て1軒30分から半日ぐらいつけて行えた。ボランティアの協力が無ければ、ここまで復興が進まなかった」と振り返り、ボランティアが果たした役割の大きさを評価した。

この後、今後の課題についての討論に移り、坂本町長は「防災マニユアルの策検ととき、福祉の町へのりを通じて地域の交流を高め、災害に強い町にしていこう」と語った。

被災地被害にあった米子市の安部家名団地へ、住居の手入れとなった矢野博司さんは、団地復旧の過程で住民間の交流が深まったと強調。「鳥取県の住宅再建支援制度が全国に広がるよう、被災者として訴えたい。また、地域住民の間で互助の精神をばくまな

ければならない」と語った。

最後に片山知事が自らの1年間を総括。「災害復興は『不変』を解消していくことが重要だ。『元通り』に近づけるまで。それには住宅再建が最も重要になる。元通りにすることを基本に復興を進めてきたが、今はそれが繰り返してはならない」と語った。

平成13年10月7日(日) 毎日新聞

# 多くの人と出会えた

## 小、中学生が学んだことと発表

パネルディスカッションの後、小中学生が被災体験から学んだことや、学校施設の復旧状況などを発表した。

溝口町立日光小添谷分校は、地震で校舎と体育館が使えなくなり、今年3月まで本校で生活。全

壊した校舎は新築され、8月に完成した。

3年生の本庄直人君と森美沙希ちゃんの2人が、体育館が建て直される様子などを、会場の大スクリーンに映されたビデオを使って紹介。本庄君は「本校で生活してい

た時は、早く分校が直る一親しんだ校舎への思い」といなど思った」と憤りを発表した。森さんは「新



地震で壊れた体育館が新しくなる様子を発表する日光小添谷分校の児童

しくなった体育館を、これからも大切に使用していきたい」と大きな声で話した。

日野町立日野中の上田紀穂さん(3年)は、地震後のボランティア経験を発表。大勢の人が避難していた中学校のトイレ掃除をした時、排水管が壊れて汚物がしっかり流

れず、においなどで苦労した体験などを紹介した。

上田さんは「私にできることはないかを考えた。お年寄りなどに感謝され、人のために何かすること、こんなに自分が変わるのかと思った。地震でつらい思いをしたけれど、多くの人と出会

い、素晴らしい体験ができた」と話し、貴重な経験を生かしていくことを誓った。

智頭町立山郷小の4年生7人は、地震を機に急斜面や土石流の危険地帯が多い地域防災マップを作ったことを紹介した。

平成13年10月7日(日) 毎日新聞

たくさんの元気もらいました。今度は私たちが返します

# 力強く復興宣言



「がんばろう」とこぶしを上げる  
中原早紀ちゃん(前列左)ら参加者  
—6日午後、青木勝彦写す

## 鳥取県西部地震から1年

鳥取県西部地震から1年の6日、同県米子市で県主催の「鳥取県西部地震を考える県民大会」が開かれ、市民や自治体関係者ら約1100人が、復興への取り組みや地震の教訓を話し合った。

昨年10月6日午後1時半に発生した地震は、マグニチュード7.3、最大震度6強を記録し、10府県で負傷者182人、全半壊3517棟の被害が出た。県内の被害は負傷者141人、全半壊2880棟に上った。

県は建て替え世帯に300万円を支給するなど、全国初の公的支援制度を創設。先月25日現在、建て替えに174件、3億3370万円、補修に5944件、19億1442万円を支給した。

また、今後の自然災害で同様の支援をするため、県と市町村が50億円を積み立てる「住宅再建支援基金」が近くスタートするなど復興、防災体制の整備が進むが、最大の被害が出た日野町では、今も16世帯41人が仮設住宅で生活している。

県民大会では、片山善博知事や被災住民らの討論会に続き、小中学生がボランティア体験などを発表。地震直後に毎日新聞に載った笑顔の写真が、被災地の元気な姿を全国に伝える県のチラシに転載された日野町立根雨小3年、中原早紀ちゃん(9)らが「たくさんの優しい心に元気をもらいました。今度は私たちがたくさんの人に返していきたいと思います。みんなで力を合わせてがんばろう」と復興宣言をした。

平成13年10月7日(日) 毎日新聞



# 「元気いっぱい鳥取県」

西部地震 1年 県民の集いで復興宣言

「元気いっぱい鳥取県、みんな力を合わせて頑張ろう」。鳥取西部地震から丸一年を迎えた6日、鳥取県米子市の米子コンベンションセンターで「西部地震を考える県民の集い」が開かれ、最も被害の大きかった同県日野町の小学生が、県民を代表して復興宣言を行い、元気を取り戻した鳥取県を、内外にPRした。

宣言したのは、全壊家屋三百九十三棟のうち百二十九棟が被害に遭った日野町にある町立根雨小学校三年の中原早紀さん、中原美咲さん、袴田珠理さんの三人。

早紀さんは、震災二日後に片山普博知事が現地を訪れた際、明るい笑顔で出迎えてくれたことから、復興に関するパンフレットなどにも起用さ

れ、明るい笑顔で県民を勇気づけてきた。

三人は「掃除の時間で、びっくりして机の下に入りました。家に帰ってみると道路はボコボコ、どこの家もメチャクチャでした」と当時を振り返り、「町の人やボラティアの人にしていただいたことは忘れませんでした。たくさんの人に返したい」とアピールした。

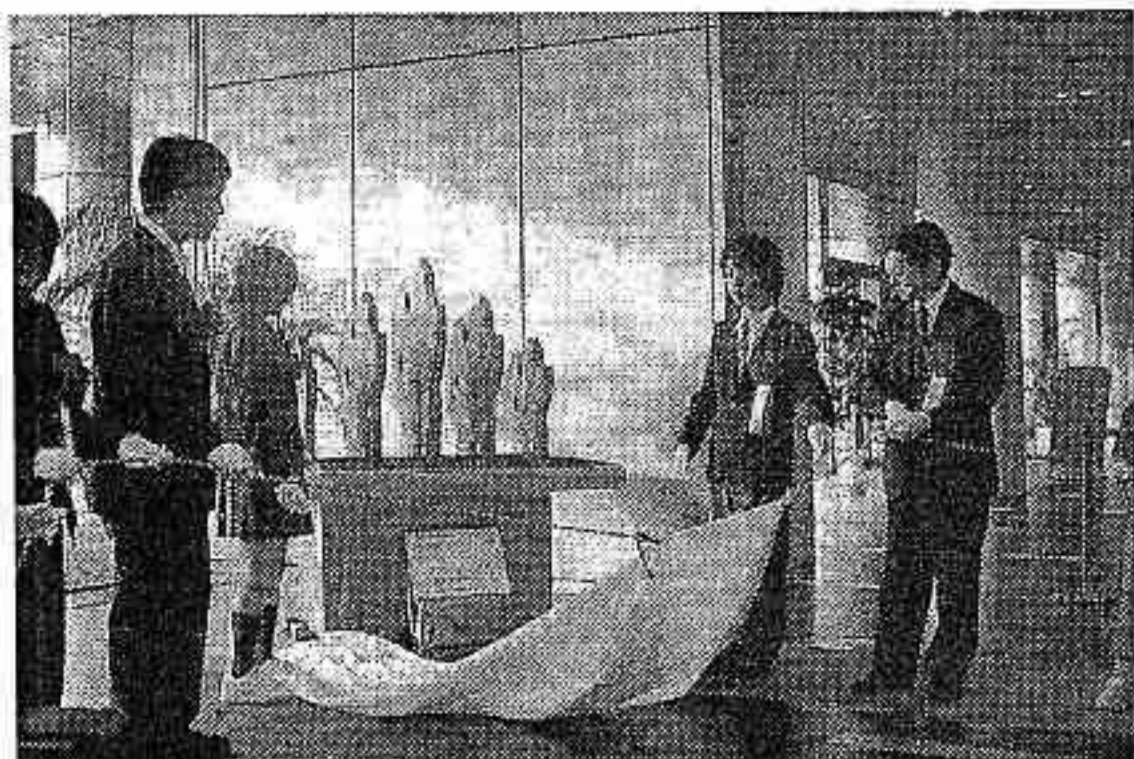
最後は会場の県民約千

百人とともに「元気いっぱい鳥取県。みんなと力強く復興を宣言し、ばい根雨小学校。元気い力を合わせて頑張ろう」と。

平成13年10月7日(日) 産経新聞

## 「まなざし〜あすへの希望〜」

米子高生徒 モニュメント作る



復興への願いを込めて作られたモニュメントの除幕式

県西部地震を考える県民大会会場の米子コンベンションセンター1階エントランスロビーで6日、米子高(米子市橋本)の総合学科陶芸選択の生徒たちが制作した陶製の震災復興モニュメントの除幕式が行われた。

「まなざし〜あすへの希望〜」と名づけられたモニュメントは、門田奈緒美さん(3年)がデザインし、門田さんら9人の生徒が作った。大小5枚の粘土板(高さ約50センチ、幅約40〜70センチ)を並べ、それぞれに人の目を表す二つの穴が開いている。この穴は、現実をまっすぐ見つめる目と、一日も早い復興を望み明日を見つめる目を表現しているという。

会場であった制作発表で、門田さんらは「まなざし」は現実には立ち向かう人たちを見守るという意味でつけました。一日も早い復興を願っています」と説明。除幕式で片山知事と高校生らがリボンを引き、モニュメントが現れると周囲から大きな拍手がわいた。

平成13年10月7日(日) 毎日新聞

# 災害への認識 新たに

## 鳥取西部地震から1年

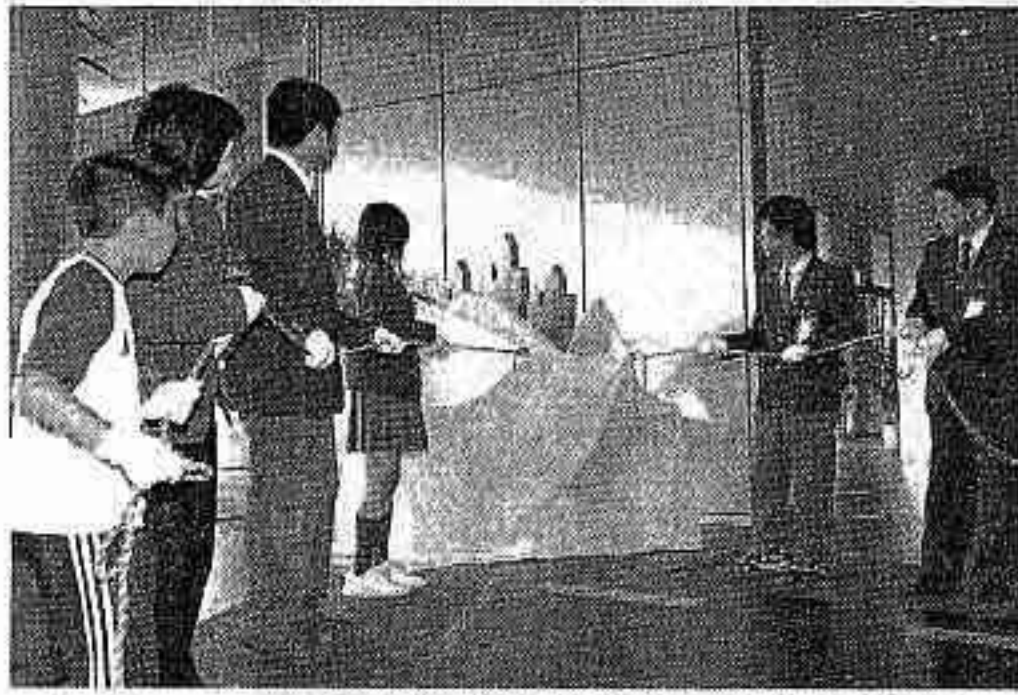
鳥取西部地震からまる一年を迎えた六日、被災地の米子市で片山善博知事をコーディネーターに

### 米子でモニュメント除幕 県民大会

米子市末広町の米子コンベンションセンターで開かれた西部地震を考える県民大会では、震災の教訓を生かして復興をさらに推進するための方策が話し合われた。

パネル討論では片山知事をコーディネーターに、坂本昭文西伯町長や、液状化被害を受けた米子市安倍彦名団地の矢野博司さん、境港市の内団地にあるカワバタ印刷の川端広代表取締役ら五人がパネリストとして参加。震災体験を今後に生かすため、地域社会を協力社会に転換するまちづくりの必要性や、住宅再建補助による住民流出の防止、電話回線の確保などを訴えた。

片山知事は「復旧とは元通りにすること。県西部で行われた地域を守る取り組みが、神戸市長選の争点にもなっている」ことなどを紹介した。



復興モニュメントを除幕する米子高生や片山知事（右端）ら

「西部地震を考える県民大会」が開かれるなど、各地で防災訓練や観光施設の再オープン式典などさまざまなイベントが催され、地震災害に対する認識を新たにした。

続いて日野中学など三校の児童・生徒による復興の取り組み発表や復興の意識を高めた。



鳥取県西部地震の1周年を記念して制作した復興モニュメントを見る片山善博知事ら（6日午後、鳥取・米子市）

## 鳥取県西部地震で県民大会

### 被災体験地域に生かせ

震度6強を記録し、百四十一人が負傷した鳥取県西部地震から丸一年を迎えた六日、被災の経験を今後の災害対策に生かそうと、同県米子市の米子コンベンションセンターで「鳥取県西部地震」を考える鳥取県民大会が開かれた。

県が主催し、約千百人が参加。震源地に近く被害が大きかった同県日野町の児童三人が片山善博知事とともに「元氣いっぱい鳥取県ノみんなで力を合わせて頑張ろう」と力強く復興を誓った。

片山知事は、地域再生をテーマにしたパネルディス

カッションで「住民の不安を取り除き、同じ地域に住み続けてもらうことが大事。費用補助などの県の住宅再建支援は間違っていない」と、これまでの取り組みを総括した。

また、県内の小中学生が「ハザードマップ作製などの取り組みを紹介。県立米子高校の生徒が、復興に向かう人々の目をモチーフに「まなざし」と名付けた陶製モニュメントを発表した。

地震では住宅約四百棟が全壊。まだ十六世帯が仮設住宅に同居している。

平成13年10月7日(日) 日経新聞

---

## 「鳥取県西部地震」を考える鳥取県民大会 報告書

平成14年3月発行

発行 鳥取県西部地震復興本部（鳥取県防災危機管理課）

〒680-8570 鳥取市東町一丁目271

Tel : 0857-26-7584, 7064

Fax : 0857-26-8137

E-mail : bousai@pref.tottori.jp

---